Ryunan Spirit

校長通信
R6.02.05
Vol.45

【自分たちに何ができるか ⑦
新聞記事を読んで考えたこと！！】

金曜日、新聞記事を読んでみんなが感じたこと、考えたことを一部ですが紹介します。

・地震のせいで家族や友人、親戚を亡くした人は、とてつもなく辛いだろうし、この先一年たっても、何年たっても苦しいだろうと思った。昨日もテレビや新聞を見て、今自分が楽しく過ごせているのは当たり前ではないと強く感じた。亡くなってしまった人もまだまだやりたいことがあっただろうし、残された人も後悔だったり、この先どうすればいいのかわからないだろうから、自分たちはこの先も支援したりして、決してこのことを忘れずに見守っていくべきだと思った。少しでも力になりたいと思い、今日文房具を寄付した。これで終わりにせずにまた機会があったら支援していきたい。

・同じ中学生が勉強できるように文具を寄付したりと少しでもいいから力になりたいという心優しい思いがあってこそ、輪島市の中学生も頑張れるんだなと思いました。また、家族の話を聞いてとても心が痛みました。ずっと一緒だった家族と一瞬でお別れなんて、どんなに辛いことか痛み知れないけど、こんなことがあったことを忘れることなく、これからどんなことをしていけばいいのか考え行動したいです。

・家族を突然失う悲しみは、私もおじいちゃんの急死で経験しているので、すごく辛い思いをみんなしているのが伝わってきました。それに加えてお家が壊れたり、お友達が亡くなったり悲しいことばかりだなと思いました。一ケ月たっても先月から変わらない状態なことを知って、早く復興が進んでほしいなと思いました。家族やお友達の存在や、学校へ行けることの有り難さとか、自分にとって大きな存在であることを改めて感じました。

・何度見ても悲しいし、家族を失った人の記事には胸が痛くなった。直接現地に行くことは難しいけれど、この地震のことを忘れずに未来に伝えていくことが自分たちにできる、ある意味使命ではないかと思います。

・勝浦中生が一生懸命に取り組んでいて感動しました。また、亡くなった方に向けてのメッセージみたいなのが書かれている記事は、どれも寂しさを感じました。独りぼっちになってしまった人もいて、後悔している人もいて、みんなそれぞれいろいろな思いがあるなと思いました。

・私は四月に高校の制服を着て無事に入学することができると思うけど、亡くなってしまった子どもたちは買った制服を着ることができないんだと知って、寂しくなりました。亡くなった人たちを生き返らせることはできないけど、今も避難所で苦しんでいる人たちがたくさんいると思うので、その人たちのためにできることを勝浦中生を見習ってやっていきたいです。

・この地震でたくさんの人の幸せと日常を奪いいつも通りの生活ができなくなってしまった。一ケ月前を振り返るとすごく胸が痛くなる。一ケ月たって仮設住宅ができたり、電気が回復したりと希望の光も見えてくる。より早く日常を取り戻すために募金などを積極的に取り組み、いち早く幸せな暮らしを取り戻してほしい。

・現地に行くことだけがボランティアではないんだなぁと思った。

他にもたくさんのメッセージがありました。今も毎日のように亡くなった方が増えていたり、厳しい生活環境の様子が報道されています。本当はすぐにでも飛んでいって、何でもいいからお手伝いしたい、そんな思いを持ってくれた人もいます。でもそれは、そんなに簡単にできることではありません。だからこそ、私たちにできることをまず、することではないでしょうか。現地に直接行かなくても、中学生のみんなにもできることはある。一人一人の思いを大切にしていくことが、今求められているのだと思います。

学習委員会の取り組みに協力してくれた人、今日もたくさんいました。南部中生一人一人の思いを紡いで、少しでも石川県の人たちが元気を出してもらえるよう、頑張っていきたいですね！！